

## まちづくりシンポジウム 議事要旨

名 称	将来のみよしをみんなで考える まちづくりシンポジウム －第2次みよし市総合計画を策定します－
開催日時	平成30年7月7日(土) 午後1時30分～4時00分
会 場	文化センター サンアート 小ホール
プログラム	<p>第1部 将来のみよし市への想い</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開演</li> <li>・開会の挨拶</li> <li>・第2次みよし市総合計画基本構想(素案)の内容説明 総合計画審議会会長 伊藤 久司氏(東海学園大学教授)</li> <li>・トークセッション「20年後のみよし市の展望」 コーディネーター 伊藤 久司氏</li> </ul> <p>出席者 阿部 亮吾氏(愛知教育大学准教授) 田中 人氏(愛知学泉大学専任講師) 新谷 千晶氏(あいちNPO市民ネットワークセンター理事長)</p> <p>オブザーバー 鈴木 淳(みよし市副市長)</p> <p>第2部 まちづくり講演会 まちづくり講演会 「これからのみよし市に求められるまちづくり」 講演者 藻谷 浩介氏(株式会社日本総合研究所 主席研究員)</p>
来場者数	185名
第1部 将来のみよし市への想い	
開会の挨拶	
<p><b>【市長】</b></p> <p>現在みよし市では、平成28年度から30年度までの3カ年をかけて、まちづくりの指針となる「第2次みよし市総合計画」の策定を進めている。</p> <p>みよし市にとって、最初の総合計画は、今からちょうど50年前の昭和43年、1968年に「三好町総合計画」が策定された。以後、6つの総合計画を策定し、企業誘致や名鉄豊田線の開通、三好ヶ丘の街びらき、畑地帯総合土地改良事業の着工、東名三好インターの開設、大規模商業施設の整備など、まちづくりの基盤整備を定めるとともに、市民にとって「住みやすいまちづくり」事業を進めてきた。</p> <p>時を同じくして50年前には、トヨタ自動車の三好工場が操業した。本市にあるトヨタ自動車の4つの工場は、本市の発展に欠かすことのできないものである。先日、トヨタ自動車三好工場の「操業50周年記念式典」に参列する機会をいただき、50年前のことを三好町誌で調べたところ、工場誘致の際には、地主、行政区、トヨタ自動車、そして町行政が、夜、昼区別なく折衝、話し合いを重ね、操業に至ったと記されている。</p> <p>総合計画については、本市の行政運営の指針であり、本市の20年後の将来像を提示するものであ</p>	

り、みよし市の発展に欠かせないものである。総合計画を策定する際には、時間をかけて、多くの市民と話し合い、ご意見やご提言をお聞きするとともに、今日的な課題をクリアにして、20年後、将来を見据えて、作り上げていくものであると考えている。

このシンポジウムは、まちづくりの指針となる総合計画基本構想の素案について、その内容を市民と共有するとともに、将来のみよしを市民と行政が一緒になって考え、共にまちづくりを進めていく機会とするために開催するものである。

このシンポジウムにより、みよし市の将来のあるべき姿を実感していただけるのではないかと考えている。

## 第2次みよし市総合計画基本構想（素案）の内容説明

### 講演資料参照

### トークセッション「20年後のみよし市の展望」

#### テーマ①：「20年後のみよし市」をどのように描いているか

##### 【阿部亮吾氏】

みよし市の良好な都市空間、都市景観の形成という観点から。

20年後は今以上に人口減少、少子高齢化が進み、既に「消滅可能性都市」という言葉も使われており、政府でも2040年の行政運営のあり方を検討している。

人口減少が進めば財政も厳しくなり、その場合は、限られた財政を適切な場所に集中的に投入するという、資本の選択と集中が必要になってくる。

中心により多くの資本が投入されるべきと思うが、果たしてみよし市の中心的な空間というのが一体どこになるのかが問題になる。三好ヶ丘や黒笹といった駅前の空間をどう利用するのが20年後のポイントになってくる。

2027年のリニア開通により東京から名古屋まで40分につながるようになる。現在は東京から名古屋はおよそ1時間半であり、リニア開通後には90分圏でどこまでつながれるのが重要になってくる。名古屋駅から40分から50分ぐらいには三好ヶ丘駅がその範囲内に入っていることから、駅前というのをポジティブな要素としてより活用していくことが重要である。

三好ヶ丘の駅前にはまだ低未利用地と言われる空白のエリアが広がっており大きな駐車場がないことから、駅前に駐車場や商業施設を整備して駅をより活用してもらうという方策が必要である。

例えばみよしの農産品、地元産品を駅前に出品するなど、道の駅のような駅前空間の利用を推進する必要がある。また、三好ヶ丘駅が玄関となるような景観整備も必要となる。

場合によっては、市役所、行政機能も駅前に移転して、南側からは車でアクセス、北側からは公共交通機関でアクセスするような形が今後必要になってくる。

これから20年後は「行け行けドンドン」のような都市開発というのは不可能になってくるので、緩やかな撤退ということも考える必要がある。人口減少、少子高齢化の中での空き家問題を行政がどのように取り組むのかも重要となる。中心市街地や駅前は利用率を高めていき、それから、南側の方の農家が多いようなところでもう空いてしまったところは、農業とセットで貸し出して農家の利用を進めていくような積極的な施策というのが今後は必要になってくる。

### 【田中 人 氏】

基本目標の4「魅力と活力があふれるまち」について。

アンケート結果によると、「住みにくい理由」としては「買い物や外食の利便性」や「交通利便性」の低さが上位に挙がっているが、おそらく地域格差が大きいと思われる。

新しい総合計画の将来像は、「みんなで育む 笑顔輝く ずっと住みたいまち」であり、「ずっと住みたいまち」というのは、ずっとそこで暮らして自分の生活の人生の全般をそこに置く、つまり、ふるさとにしていくということである。そういうまちというのは「人が集まる」、「人がやすまる」、「人がとどまる」の3つの「まる」が必要である。

みよし市の「集まる」に関しては、強固な産業基盤があり、世界に冠たる自動車関連産業の集積地のため、労働面において人は集まるので、活力ある産業が伸びるまちとしての見通しはある程度立つ。

「やすまる」というのは、安全安心の安、「安まる」であり、仕事ではなく余暇の場合に行くところ、心が落ちつきゆとりが持てる場所を意味している。

心にゆとりが持てる場所であれば、「とどまろう」、「ここにずっと暮らそう」という気持ちになる。特に子育て世代の両親がそのように感じれば、その子ども世代にもふるさと意識が芽生え、将来、さまざまな形でまた戻ってくることになる。

残念ながら、本市は転入人口も多いが、転出人口も多いので、この部分で魅力というのが鍵を握っていると思う。産業面での活力ではなく、余暇やアクティビティーにおいての魅力を出していかなければならない。

魅力といっても、それぞれ多様な価値観を持っている。新しい総合計画における4つの地域では、それぞれ特別な個性や伝統文化を持っているので、そこをどう発揮していくかが重要である。それを行政から示すだけではなく、地域の皆さんが主体的にどんどん提言していくこと、そして、それに行政がバックアップしていくような、公民連携のあり方を、余暇やアクティビティーの面に出していく必要がある。

### 【新谷千晶氏】

基本目標1・2について。

20年後の社会がどうなっているのかをイメージすると、もう少し前であつたら、わくわくと期待にあふれた考えができたが、現状はそんなに単純に期待を持ったイメージがしづらい。

その理由として大きいのが、新しい総合計画を考える背景の1つとも言われている情報通信技術の急速な進展で、特にAI（人工知能）は社会に大きな変化をもたらすと思っている。ただ、総合計画というのはまちづくりの指針で、そのまちづくりの原動力というのは私たち人である。その育ちや学びというのはどんな社会にあっても大変重要なことだと思っている。

基本目標1では、子どもから大人まで、日々充実して生き抜く力をどう育てていくのかを提案している。核家族化や共働きが増える中で、地域とのつながりの希薄化が子どもを育てる上で影響を与えていることも確認されている。この改善も含めて20年後を目指して、みよし市では子どもが育つための相談や、支援活動などが家庭や学校、地域で続けていける体制と環境をつくろうと考えている。

大人については、充実した暮らしをしていくために学びの場、交流の場、体験の場というのを環境とともに整えて、仲間づくりや、地域との関係づくりを深めていただこうと考えている。

基本目標2では、日々の生活を健やかに笑顔でおくるために、みよし版地域包括ケアシステムが必要であると思っている。

このみよし版のシステムは、子ども、障がい者、高齢者を含む全ての市民にとってずっと安心して暮らせるまちを実現しようというものである。健康を守っていく専門的な医療や介護については体制づくりが欠かせないが、一人一人が自分の健康に向き合っていく自助と、それから、お互いに助け合う互助があってこそ、このシステムは良いものになっていくと思っている。

#### 【伊藤久司氏（コーディネーター）】

阿部氏のご意見は、駅周辺の開発は20年後のみよしにとって非常に重要となる1つのポイントという内容であった。それについて、田中氏と新谷氏のご意見をいただきたい。

#### 【田中 人 氏】

駅前の商店街の活性化ということに関しては「魅力と活力」に大きく関わってくるので同じ問題意識である。

商業活性化を図るには、大型ショッピングセンターだけではなく、駅前の商店街、特に商業者がどのような魅力を発信できるかが重要である。ただ、それは行政で青写真を描いていくことは難しい問題であるため、商業者と行政との連携も強めていかなければならない。

また、市民の皆さんも単に消費者としてそれを利用するだけではなく、例えば月1回駅前で公共空間として借りて、そこで出店できるというような手法をとったり、また、空き店舗、空き家を活用したりして、できるだけ若い人に魅力ある個店を出していただけるような形で貸すことができるような、フレキシブルな対応が求められる。

#### 【新谷千晶氏】

基本目標6に「自然と開発のバランスのいい」という文言がある。第1次総合計画のときに、中学生の子どもたちにみよしの将来について意見を聞く機会があり、「みよし市は自然があり都会でもなく、田舎すぎないところがよい」という意見が多く挙がった。

これからみよしがどういう都市として育っていくのかというところにおいては、まずみよしの特色が何なのか、それを行政の視点から今後の発展を考えた目線も必要だが、そこに暮らしていく市民目線がどこにあって、何を求めているかということも汲み取って進めていく必要がある。

#### 【伊藤久司氏（コーディネーター）】

田中氏のご意見は、基本目標4の中では「やすまる」という要素が非常に重要であるということであったが、それについて阿部氏と新谷氏のご意見をいただきたい。

#### 【阿部亮吾氏】

市町村内に大学を抱えている自治体というのはおそらく数えるほどしかないと思うので、市内に大学がある、若い人が定期的に入ってくるという環境を持続可能なものとしてもう少し利用できないか。若い人たちがみよし市に入ってきた後に、そのままとどまってくれるような仕組みはできないのか。

駅前に降りたときに目の前のプロムナードを上がっていくと大学があるので、駅と大学の間で何か大学生が活躍して、みよしに貢献できるような、あるいはそれが終わった後にみよしで働いてくれるような仕組みを皆さんと一緒に考えていければと思う。

**【新谷千晶氏】**

私も東海学園大学の学生をまちの中で見かけたり、いろんなところで連携して一緒に動くということをしていたりしているので、定着にもつながるようなことを今後期待して、何か良い知恵があればいただきながら頑張りたいと思う。

**【伊藤久司氏（コーディネーター）】**

私はその大学に所属しているので、今後きちんと検討するようにする。

また、新谷氏からの基本目標1と基本目標2に関するお話では、子育ての体制を整えたり、大人としては学びや交流の場が必要ではないかというご意見であった。基本目標2では、地域包括ケアシステムというのが重要になってくるというお話であったが、それについて阿部氏と田中氏のご意見をいただきたい。

**【阿部亮吾氏】**

児童虐待の問題においては、悲しむだけではなく、どのようにそれを発見して救っていくのかということが重要であり、1つの家庭の話ではあるが、まちづくりにおいて、そのような問題がより大きなものとしてクローズアップされてくるのではないかと考えている。行政としてそのような問題をワンストップで全てを解決できるような児童ケアというか、発見し、介入し、救っていく、あるいは救った後のその子どもの人生も含めて、連携をとって円滑に素早く命を救っていけるようなシステムができたらよいと考えている。

**【田中 人 氏】**

みよし市に住んでいる同僚は、「子育ては大変しやすい」とみんな言っている。非常に子育てしやすく、子どもを見ても、元気な子が非常に多いと思っている。

ただ、児童虐待の話も出たが、行政によるワンストップのケアはなかなかそれが難しいことである。虐待に対応できるような設備、施設、児童相談所は全国に210であり、児童福祉士は3,115人程度であるのに対し、児童虐待は12万件以上ある。

そういう点で、みよし市の利点というのは、非常に小さなまちであると同時にコミュニティがしっかりしているコミュニティ力が強いところである。そういう潜在力を生かしていけば、「子育てのみよし市」というシティープロモーション、都市のPRにどんどんつながっていくのではないかなと思う。

テーマ②：これからのまちづくりでは、市民、行政にどのようなことが必要か？

**【阿部亮吾氏】**

行政は基本的には公的機関であり、公的なサービスを市民に提供するという機関であるが、これか

らは都市を経営・運営する時代になっていくのではないかと思っている。

非常に厳しい人口減少時代を迎えたときに、みよし市が生き残りを図るためには都市をよりよく経営していくことが必要であり、より重要なのは都市の戦略やシティープロモーション、都市の適切な管理であり、市民の皆さんと一丸となって都市をつくり上げていくことが非常に重要である。

EUでは移民や多文化といったものを、非常にポジティブな、まちを発展させていくような成長要素として、あるいは都市の創造性、発展性に結びつけるような要素として都市運営の中に位置づけている。

みよし市は、現在は在住外国人の方はあまり多くないが、都市の創造性や発展性にそうした要素を積極的に寄与させるような都市運営、都市戦略といった観点のあり方がおそらく20年後には今よりも卓越して重要な要素となってくるのではないかと思う。

### 【田中 人氏】

今、私たちは、みよし市全体の話をしているが、市民の皆さんが暮らしているエリアというのはもっと狭い範囲で、そこにそれぞれ価値を見出しており、4つにゾーニングした地域の中でのエリアマネジメントが重要となる。

特に住民自治というものが強いところほど、さまざまな魅力、アクティビティーがあり、高齢社会について非常にネガティブに語られているが、決してそうではなく、むしろ、今求められるのは高齢者がそれを楽しむようなアクティビティー、そこにもう少し注目し、この市がどのような余暇に何が提供できるのか、あるいは市民の方々が何をできるのかにつながっていくと思う。

アンケート結果の中には、「まちのシンボル、特徴がない」という回答も多くあったが、これは非常にもったいないと思う。やはり市になってまだ8年、まだ市民意識、シビックプライドがまだ小さなエリアの感覚が残っているのだと思うが、これからはオールみよしでこの市を盛り立てていく必要がある。

この市は大きな魅力をたくさん抱えている。例えば福谷城は戦国時代ファンが非常に憧れるような貴重な城であり、猿投古窯は古墳時代末期から鎌倉時代まで700年も続いた焼き物の窯であり、つまり当時の最新テクノロジーの集積地である。それを子どもたちがさんさんバスを利用したり、あるいは学校のさまざまなイベントで認識することで、みよし市は昔も今も最新テクノロジーの集積地である、そういうアイデンティティーを身につける。これはとても地味ではあるが、20年後、30年後と考えたら、一気にイベントや何かでたくさんの人に魅力を伝えるというよりは、今いる人たちが自分たちのよさ、魅力を共有していくというところに力点を押さえていくことが重要なのではないかと考えている。

### 【新谷千晶氏】

先ほど、相談がワンストップでできればいいというご意見があり、確かにそうではあるが、いずれにしても、子の育ちを確保していくための相談、手助け、さまざまな体験活動、これらの支援には多くの市民の方の参画が欠かせないと思っている。1回で終わることなくそれを継続して続けていくために、体制をつくって環境を整えることが必要である。

地域包括ケアシステムは、市民がずっと安心して暮らせるまちを実現していくためには確立して充

実させなければならないが、活動場所はコミュニティであり、そこには市民や市民活動団体、地域活動団体の自主的で積極的な関与がないと実現できないと思っている。こういうことが事業を進めていく上で協働が必要になる理由と考えていただければと思っている。

協働して行う事業や活動で何を解決したいのかという課題と、それをどんな状態にしていきたいのかという目標や目的をしっかりと話し合っ合意するということが重要であり、その方法も合意をして、その上で役割を持つということになる。単独で行うよりもはるかに注意することは必要ですが、できることから取り組んでいかなければならない。

国は、市民生活に近い課題はそれぞれの自治体で何とかしましようという動きになっている。私たちも自分たちのまちづくりに参画できるように頑張るが、行政にはぜひみよしの実情というのをしっかりと把握していただきたい。

#### 【伊藤久司氏（コーディネーター）】

行政としていろいろとやっていただきたいというようなご要望があったので、オブザーバーとして副市長から、3名のご意見を伺ってどのように感じられるかをお話しいただきたい。

#### 【副市長】

阿部氏のご意見より、都市経営という視点でのまちづくりについて、総合計画の中でもうたっていたい。

また、田中氏よりシビックプライドという点についてお話しいただいて、確かに最近になって「古窯についてはみよし市のすばらしいところだ」というお話をいただく機会もあり、改めて認識できたので、その部分を市民のツアーや、みよしのそういう知識をみんなで協議するようなものもやっていけたらと思う。

新谷氏からは、みよしの実情をしっかりと把握してというご意見をいただき、それぞれの担当部局でこれから計画の中でしっかりやっていきたいと思う。

#### 【伊藤久司氏（コーディネーター）】

阿部氏から、都市経営や都市戦略が重要になり、その中で異文化を取り入れていくことが必要だというお話があり、そのご意見を伺って、田中氏と新谷氏、何かもしご意見があればいただきたい。

#### 【田中 人 氏】

現状は外国人労働者がそれほど多くないが、今後生産年齢人口が減っていくとなると、そういう外国人労働者に依存する部分はどんどん高まっていくと思う。

「外国人集住都市会議」というのが開かれて随分長く、豊田市も入っており、「豊田宣言」を採択している。そういうことにだんだんみよし市も入っていくのかなと思う。そういう人たちもコミュニティの一員として新たに迎えていく中で、多文化、異なることを拒絶するのではなく、むしろ、その多様性をみよし市の中にあるさまざまなエリアの多様性と同じで、外国人の文化というものもこのみよしの新しい魅力づくりの中に取り込んでいく、そういうような工夫、そういうビジョンも都市経営の中で持っていかなければいけない。

**【新谷千晶氏】**

私たちが市民活動としてまちづくりを目指していく上で、共通して注意すべきことは、リアルな体験、当事者間、それから、現場というものが物を考えたり、計画をつくるときに少しそこから離れてしまうと結局説得力もないし、力も発揮できない。これから行政としてより経営的な運営的な目線を持っていくときに、その出発点にぜひリアルな現場、リアルな当事者を視点にさせていただきたい。そこを外れてしまうとせっかくの苦労したものがいい形になっていかない。

**【伊藤久司氏（コーディネーター）】**

田中氏からは、市全体も大事だが、地域それぞれのエリアマネジメントも重要になってくるというお話があったが、それに関して、阿部氏の意見を伺いたい。

**【阿部亮吾氏】**

田中氏の高齢者はアクティブだという話と、新谷氏の子どもの育てではなく「育ち」という話をまとめると、アクティブな市民というのが想定されていると思う。

最初の駅前利用の話に少し近づけていくと、駅前にアクティブな高齢者の方が日々集まって活動する、例えばスーパー銭湯のような施設を作り、その上に市役所を建てて、さらにその横に子どもの体験型施設等を併設して、子どもや高齢者が同じ場所に集まって三々五々しているような都市空間ができるとおもしろいと思う。

そこに東海学園大学の学生がお手伝いに集まってきて、昼間はパーク・アンド・ライドとして活用される駐車場では、夜は夜市などのマーケットを行うなど、単なる複合的なショッピングモールではなくて、さまざまなアクティブな市民が集まってきて、何かクリエイティブなことをやっていけるような場所ができると20年後は希望のあるお話ができると思う。

**【新谷千晶氏】**

可能性はたくさんあると思うが、現実には課題も多くあって、その課題をまず受けとめて、それを自分たちでどう向き合っていくのかということから始めていくというのも1つの場づくりの方法だと思う。

楽しむのも良いかもしれないが、人間が本当に生きがいや、やりがいを見つけられるのは、誰かと一緒に何かを解決したときの喜びというのが大きいと思うので、これからまちの中にどのような体験をして、どのような喜びを持つ人を増やしていくべきかをこの総合計画をきっかけにもう一度考えて、それをぜひみよしの中に広げていければと思っている。

**【伊藤久司氏（コーディネーター）】**

新谷氏には協働というキーワードを出してお話いただいた。これは総合計画の中でも非常に重要なことだと思うが、これについて阿部氏と田中氏にご意見があればいただきたい。

**【阿部亮吾氏】**

協働という点においては、やはりせっかく東海学園大学があり若い人がいるので、空き家を安く貸



すなどしてできるだけみよし市に住んでもらい、また、まちづくりの審議会の中に大学生がいてもよいのではないかとなんとなく思うところはある。

まちづくりに関するニュースを拝見した中で、福井の鯖江市では、女子高生を対象に独創的なアイデアを引き出すという取り組みを行っている。その取り組みによって、人口も少し増えてきているようである。みよし市でも、20年後にみよしで活躍できるような大学生や高校生の若い頭脳が審議会に入って意見を言っていたとしても良かったかもしれない。

駅周辺の開発については、審議会でも実際に多くの方が意見されており、今回の総合計画基本構想の中で目玉がないという意見は審議会の何人かの委員から出ている。これから20年後に、全体的に何でもやるのではなくて、どこに期待感があるのか、ということが審議会でも問題になり、それに対して若い活力を、というのが私の思ったところである。

### 【伊藤久司氏（コーディネーター）】

補足すると、総合計画審議会には学生は入っていないが、地域公共交通会議については今年度から本学の学生が委員として、学生の視点で公共交通についての意見を述べる機会を市には作っていただいている。

このトークセッションのテーマは「20年後のみよし市」であり、新しい総合計画の基本構想も目標年次20年後となっており、「20年後」というキーワードが何回も出てきている。20年後の日本やみよし市がどうなっているかを想像するのは非常に難しい。逆に現在の姿が20年前どれほど予想できたかについてお話したい。現在、携帯電話の普及率は133.8%となっており、20年前の普及率は25%であった。20数年前になると普及率は1%となり、すなわち、20数年前、ほとんどこの世に存在していなかった携帯電話が今はもう日常生活においてなくてはならない存在になっている。これはなかなか想像することが難しかったと思う。

想像することが難しいのもう行政任せで良いのかということではなく、本日のこういう議論を参考にしていただき、また、何度となく出た「市民と行政の協働」というキーワードは、みよしの将来の具体的な姿を示したものではないが、未来の姿をつくり上げていく中でのその姿勢に対する基本的な考え方であり、決して揺らぐものではないと思っている。

市民の皆さまには、市に任せるだけではなく、ぜひお住まいのみよし市に関心を持っていただき、情報を発信していただいて、皆さんと行政がみよし市をつくり上げていくという意識を持っていただければ、20年後のみよし市はすばらしい都市になっているのではないかと思います。

本日のこの機会をそのきっかけにいただければ幸いです。

## 第2部 まちづくり講演会

まちづくり講演会「これからのみよし市に求められるまちづくり」

### 【藻谷浩介氏】

- ・ みよし市はとても特殊で、全国の事例が参考にならないまちである。これからたどっていく道もとても変わっている。非常に恵まれたまちである。
- ・ 伊勢湾台風の被害にあった地域の人が、実際には被害にあっていなくても洪水に対して敏感になっていたりと、戦争を経験していない現代人が「平和が大切」だという認識を持っているのは、人間が

生存するために社会の共通財産として引き継がれているからである。

- ・ 世間が常識だと思っていることは50年前に事実であったが、現代の実態にはそぐわないことが多い。このことを認識せずに総合計画をつくると、例えば、犯罪は減少しているのに警官を増やし、災害が増えているのに消防隊員を減らす、などと現実には起こっていることとは逆の計画になりかねない。
- ・ 愛知県では東京都、大阪府、神奈川県に次いで4番目に空き家が多く、名古屋市のマンションでも空室が増えている。みよし市では、人口はまだ増加しているが空き家もそれ以上に増えている。市街化調整区域を外して住宅を建てれば人が増えるというのは50年前の考え方であり、それにより現在の日本は世界でも非常に空き家の多い国となっている。
- ・ 20年前の日本の人口構成は、当時40歳代であった団塊の世代と20歳代であった団塊ジュニア世代が最も多く、現在、20年後の人口構成はいずれも20歳ずつ階層がずれて変化している。20年前から子どもの出生数が減少を続けており、今後は新しく家を買う世代が減っていくことになる。この状況下で住宅地の造成を推進するのは危険であるが、先ほど舞台裏で話した限りではみよし市の上層部はそれを理解されている。
- ・ 50年前には60歳代だった平均寿命が現在では85歳となっているため、75歳以上の人口は20年前から増加しており、今後は団塊の世代が75歳以上になるときに急激に増加し、次の時点では団塊ジュニア世代が75歳以上となるときに急増する。
- ・ みよし市は全国でも稀に見る順調なペースで人口が増加している。問題はその内訳で、子どもの数が急速に減少し、高齢者の数が増えている。75歳以上の人口は5年間で38%増となっており、医療、福祉、介護を急速に充実させなければならない。
- ・ 豊田市では15から64歳の人口より65歳以上の人口が多くなっており、少子高齢化がみよし市よりも進んでいる。みよし市がなぜそうならなかったかというと、団塊の世代が少なかったからであり、20年後には団塊ジュニア世代が65歳を超えるので今の豊田市と全く同じ状況になることが予想される。豊田市で今から起こることをしっかりと見て、20年後にみよし市ではどのように対応すべきか検討した方が良い。
- ・ 名古屋市でも人口は増加しているが、15から64歳の人口は約3万6千人減に対して、65歳以上人口は7万4千人増加していて、急速に高齢化している。空き家の多い東京では家賃が下がっているため転入が増え子どもが増加しているが、15から64歳の人口は既に減少に転じており高齢者が急激に増えている。
- ・ 全国的に見ても15から64歳の人口が増えているのは、みよし市と長久手市くらいである。この世代の人口が増えれば増えるほど、後に高齢者が爆発的に増えることになり、そうなった時、みよし市は税収源があるため何とかなる可能性がある。
- ・ みよし市は1995年頃から愛知万博の2005年頃の10年間にかけて団塊ジュニア世代が急増している。この人たちはみよし市がよほどダメにならない限り出て行くことはない。トヨタ自動車は必ず生き残り、このまちの財政は日本中のどのまちよりも良い状況が続く。つまり、急激に増えた団塊ジュニア世代は将来にはほぼそのまま歳をとって75歳以上となる。現在でも75歳以上の人口は5年間で38%増加しており、30年後にはさらに増えることになる。
- ・ 世界でも先進地域では高齢者が増えており、どの地域の高齢者が元気で楽しく生きているかの競争

をしている。日本でも同様に福祉費用などの地域差が非常に大きくなっている。過疎地では高齢化率が5割を超える地域も多いが自給力があり元気な高齢者が多い。また既に高齢者人口は減少に転じており、年少人口が増えている地域もある。医療や介護費用が減少した分を子育て支援にあてる使い方ができる。

- ・ 高齢化を怖がることはない。今いる人が歳をとって亡くなるまでは高齢者は増え続けるが、その後には再び子どもがどんどん増えて若いみよしが再生する。そのために今考えなければならないのは、今生きている人がどれだけ楽しく人生を全うするかを後世に見せることである。
- ・ みよし市は、まだ農地が残っていて、産業集積による税収があり、良好な住宅もあり非常に恵まれた土地である。団塊ジュニア世代が30年後、40年後に元気な高齢者になれるようなまちづくりに今から参加することが必要である。
- ・ 50年前は6回コールド（平均寿命60歳代）だった人生も、現代は9回裏までである。60歳代で亡くなることを前提とした50年前の人生設計と同じ考えを続けていてはいけぬ。仕事以外の時間を充実させ、地域活動などで仕事以外のつながりを多くつくることで、リタイア後の人生もその延長で豊かで楽しい時間を過ごすことができる。
- ・ みよし市を選んで住んだ人が、楽しく生き生きと人生を全うできるようなまちにしていきたい。そのためには、産業だけでなく、農業や地域の子育て支援、趣味の集まりなどさまざまな活動が必要である。ここにいる皆さんが、団塊ジュニア世代をなんとか引っ張り込めば、将来はみよし市の大多数となる団塊ジュニアの高齢者が生き生きと暮らせるまちをつくることのできる。それができるだけの税収や土地、人などの恵まれた環境条件をみよし市は持っている。